

人的資源と「医療」の役割について

国立病院機構院長協議会会長
九州医療センター院長

森田茂樹

IRYO Vol.75 No.1 (3) 2021

新年明けましておめでとうございます。

コロナに明けコロナに暮れた令和2年でしたが、令和3年はコロナを克服する年にしたいものです。世界中が未体験ゾーンに突入している現状で今までにない方法論、広い意味でのイノベーションを創出することが求められます。そのためには何が必要でしょうか？

昨年自動車のEVで先頭を走るテスラー社の時価総額が22兆円に達しトヨタを抜いたと報道されました。トヨタの自動車の販売台数はテスラーの30倍、営業収益は4兆6億円に対してテスラー9億円と企業のスケールではトヨタが圧倒しています。一方時価総額は今ではさらに差が付きテスラーが10兆円も高くなりました。時価総額は株価に比例し、株価は投資家の企業への将来の期待値を反映します。テスラーが持つ人的資源とそれを投入する方向性に共感する人々が時価総額を押し上げていると私なりに理解しました。ふとその時NHOの時価総額はいくらだろうか？と答えのない疑問が浮かびました。

コロナ禍を経験するなかでNHOに対する期待の高さを常々感じます。また優れた人材の採用、採用後の教育の質の高さ、スケールメリットの大きさなど他の組織の追随を許さない人的資源の優位性を実感します。もしNHOが民間の企業体で時価総額を測ることができたなら、きっと人的資源の評価だけで高い時価総額になるのではないかと思います。ただコロナ禍はいくつかの重大な課題を我々に突き付

けています。第一に人的資源への投資環境の厳しさです。従来のような教育・研究への投資の維持が困難になりました。第二に教育・研究の様態の変化です。対面での教育や研究における議論ができなくなりデジタルコンテンツでの教育、webでの議論に置き換わっています。対面の良さを補填する対策を立てることが求められます。第三にコロナがもたらす医療の逼迫が創造的な思考、新しい工夫やアイデアを生み出す余裕をなくしています。人材はいるのに現場はその日その日の対応に追われています。全体を俯瞰すること、先を見通すための情報を収集すること、新しい試みを提案することなどが困難になっています。

このような危機的な状況では、それぞれの施設で経験したことを失敗も含めて共有し発信することが重要です。「医療」はそのための恰好の媒体です。最近私たちの施設の医療安全管理室の看護師長がCTやMRでの見落としの根絶を目指すプロトコルを構築しその実績をまとめて「医療」に投稿しました。また別の視点から改良したプロトコルの実績を英文論文にまとめました。今後はNHOの医療安全委員会できちんと取りあげてもらいプロトコルを更に改良し多施設共同研究を行うことで機構の全施設に広まればよいと考えています。現場での工夫がNHOを変え世界を変える、その変革の起点に「医療」があります。

令和3年が、変革の起点としての「医療」が更に輝く年となることを心から祈念します。